

# PRIMERGY TX300FT S5

## はじめにお読みください

このたびは弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本紙では、セットアップの基本的な流れを説明しています。

本紙をご覧になり、本製品を使用する準備をしてください。本紙に記載されていない項目や詳しい手順については、関連するマニュアルをご覧ください。

### 本製品のマニュアルについて

本製品には、次のマニュアルが添付／公開されています。必要に応じてお読みください。

#### 紙マニュアル（本製品に添付）

はじめにお読みください……………本紙

梱包物一覧……………本製品の箱に梱包されている添付品の一覧

安全上のご注意／サポート & サービス ……本製品を安全にお使いいただくための注意事項、サポート情報

ラック搭載ガイド……………本製品をラックに搭載する手順

#### PRIMERGY スタートアップディスク

「index.html」を開き、「PRIMERGY ドキュメント」をクリックして、該当マニュアルをご覧ください。

ユーザーズガイド……………本製品の取り扱いや運用と保守、トラブルシューティングなど  
ServerView Suite 関連マニュアル……………サーバの監視を行うための設定や操作を分冊で説明

REMCS エージェント運用ガイド……………REMCS エージェントの使用法

リモートマネジメントコントローラ

ユーザーズガイド…………… リモートマネジメントコントローラの使用法

LAN ドライバ V14.0 ユーザーズガイド ……LAN ドライバ のインストール方法や詳細設定の説明

環境設定シート……………ハードウェアの構成情報、設定情報を記録するシート

everRun マニュアル……………Marathon Technologies 社提供の everRun マニュアル

FT システム（Configuration）の詳細情報や使用法を説明

#### アレイコントローラドキュメント & ツール CD

「readmejp.html」を開き、該当マニュアルをご覧ください。

MegaRAID SAS ユーザーズガイド……………SAS アレイコントローラカード使用時のアレイに関する説明

#### 「PRIMERGY」ページ（<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/>）にて公開

上記マニュアルの最新版……………「マニュアル」をクリック

システム構成や対応オプションの確認……………「システム構成図」をクリック

# 1 作業をはじめる前に

## ■ 梱包物を確認する

『梱包物一覧』をご覧ください、梱包物がすべてそろっているか確認してください。

## ■ 『安全上のご注意』を確認する

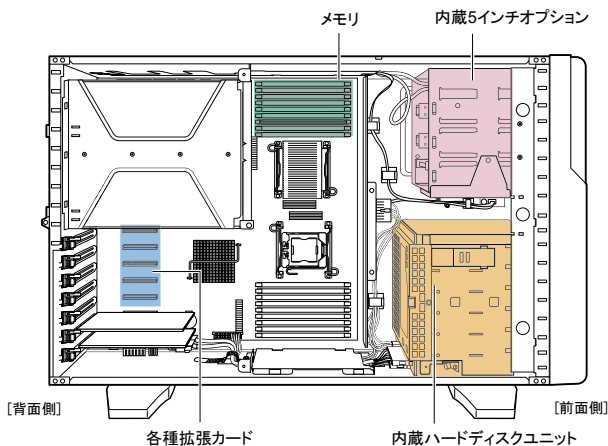
添付の『安全上のご注意』には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、必ずお読みになり、正しく安全に取り扱ってください。また、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

# 2 内蔵オプションを取り付ける

内蔵オプションを別途ご購入された場合は、OSを開封する前に取り付けます。

## ■ 内蔵オプションの種類と取り付け位置

📀 ユーザーズガイド ▶▶ 「第5章 内蔵オプションの取り付け」



- ・メモリ、ハードディスクを搭載する場合は、両方の筐体に、必ず同一の容量のものを取り付けてください。
- ・内蔵オプションを搭載後、搭載場所や搭載順序が正しいこと、ケーブルが確実に接続されていることを確認してください。

# 3 本製品を設置する

必要な設置スペース、設置場所の条件を確認して、サーバを設置してください。

## ■ 設置条件について

本製品の設置の条件については、『安全上のご注意』をご覧ください。

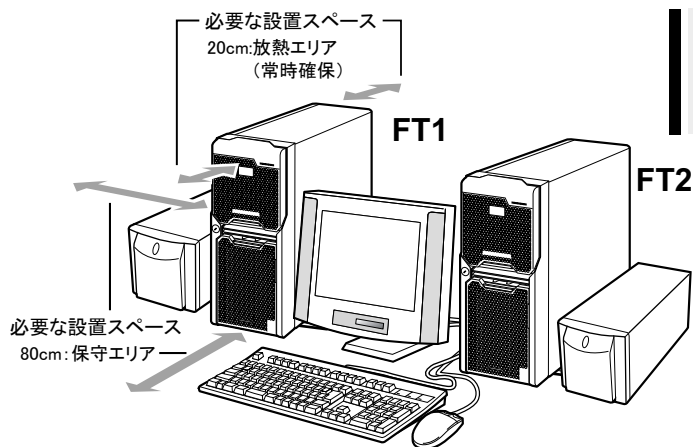
- ・ほこりの多い環境においては、短い期間でサーバ前面および背面部にほこりが付着します。故障の原因となりますので、設置場所を変更されることをお勧めします。
- ・本製品の騒音値は、実測値で稼働時 44dB / 待機時 43dB です。専門室での設置を推奨します。オフィスへの設置の際には、十分注意願います。

## ■ ラックへの搭載

ラックタイプの場合は、『ラック搭載ガイド』をご覧ください、本製品をラックに搭載してください。

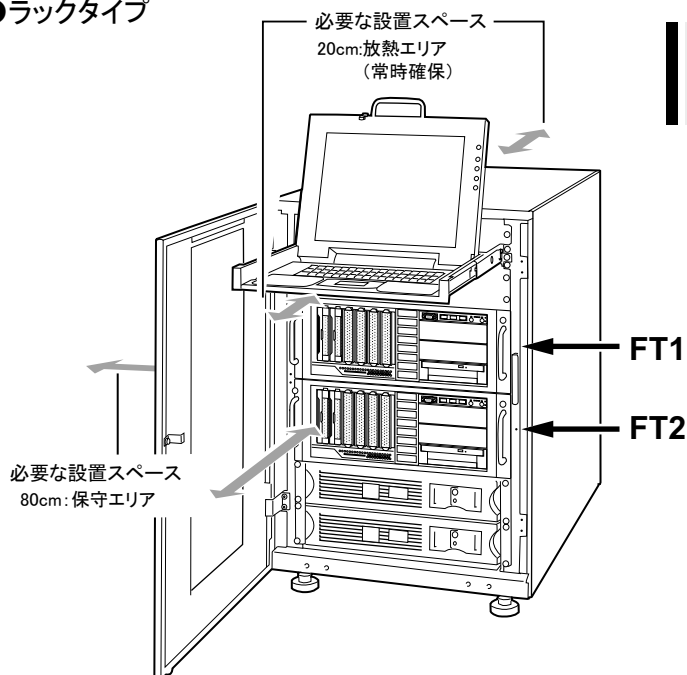
## ■必要な設置スペースと設置例

### ●タワータイプ



タワータイプの場合は、図のようにFT1とFT2を並べて設置してください。これにより、正面から見たときに、everRun マネージャでの表示と一致するため、管理しやすくなります。

### ●ラックタイプ



ラックタイプの場合は、ラックに搭載する際に、上からFT1、FT2の順に搭載してください。FT1とFT2の識別は、本体正面左上のラベルで確認してください。

## 4 各ラベルに情報を記入し、貼り付ける

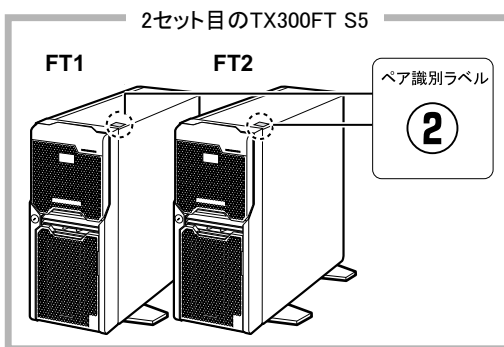
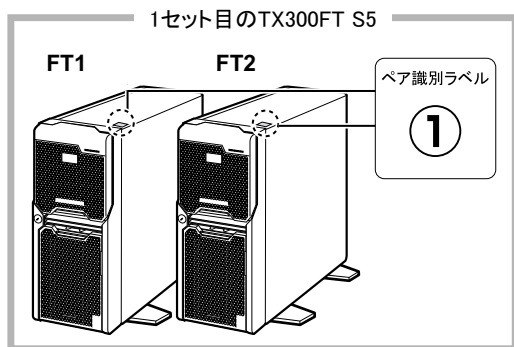
周辺装置の接続を行う前に、本体前面にペア識別ラベルと、各ケーブルタグラベルを貼り付ける作業を行います。これにより、ケーブルの識別が容易になり、ケーブルの接続ミスなどの事故を防止できます。

### ■ペア識別ラベルへの番号シール貼り付け

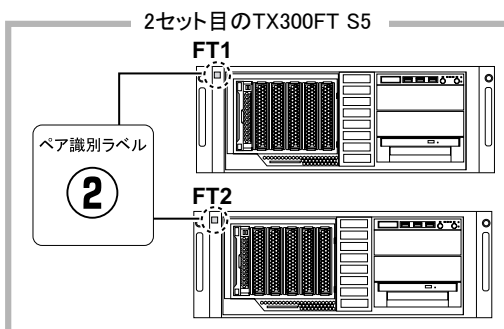
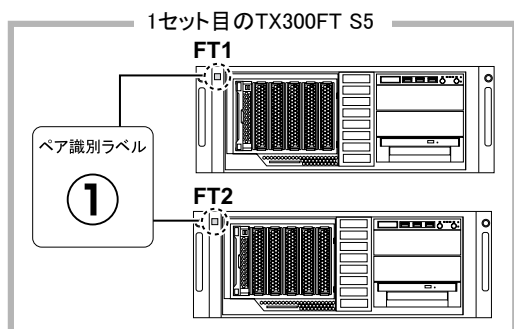
本体前面のペア識別ラベルに、FT1、FT2 がペアであることがわかるように、添付のラベルシート内の「汎用番号シール」を貼り付けてください。

サポート窓口にお問い合わせの際にも、ペアの型名、号機の情報が必要になります。必ずペア識別ラベルへ「汎用番号シール」を貼り付けてください。

#### ●タワータイプ



#### ●ラックタイプ



## ■ケーブルへのタグラベル貼り付け（ラックタイプのみ）

タグラベルは、ケーブル両側のコネクタに近い位置にそれぞれ 1 枚ずつ貼り付けて使用します。

↓ FT1 / FT2側

↓ 接続(切替機)側

元 ① FT1 PCI#2-A	元 ① FT2 PCI#2-A
先 ① FT2 PCI#2-A	先 ① FT1 PCI#2-A

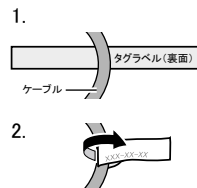
接続元のサーバ名を記入します (FT1 または FT2)。  
タグラベルによっては、接続口番号を記入する欄があります。

接続先のコネクタ名 / 切替機名 / 識別名 / タップ名 / コンセント名などを記入します。  
タグラベルによっては、接続口番号を記入する欄があります。

前項で記入した、ペア識別ラベルの番号を記入します。

### ●貼り付けかた

ケーブルのコネクタに近い位置に、タグラベルの中心からケーブルを巻きつけるように貼り合わせます。



### ●記入例

ケーブル名	記入例			
CoServerLink1用 LANケーブル	FT1側	元 ① FT1 LAN#2 先 ① FT2 LAN#2	FT2側	元 ① FT2 LAN#2 先 ① FT1 LAN#2
CoServerLink2用 LANケーブル	FT1側	元 ① FT1 PCI#2-A 先 ① FT2 PCI#2-A	FT2側	元 ① FT2 PCI#2-A 先 ① FT1 PCI#2-A
CRT/KBケーブル (FT1用)	FT1側	元 ① FT1 先 KVMスイッチ PORT#1	KVMスイッチ側	元 KVMスイッチ PORT#1 先 ① FT1
CRT/KBケーブル (FT2用)	FT2側	元 ① FT2 先 KVMスイッチ PORT#2	KVMスイッチ側	元 KVMスイッチ PORT#2 先 ① FT2
電源ケーブル (FT1用)	FT1側	元 ① FT1 先 AC#1 ※電源系統の番号等	コンセント側	元 AC#1 ※電源系統の番号等 先 ① FT1
電源ケーブル (FT2用)	FT2側	元 ① FT2 先 AC#2 ※電源系統の番号等	コンセント側	元 AC#2 ※電源系統の番号等 先 ① FT2
監視用 LANケーブル (FT 1用)	FT1側	元 ① FT1 PCI#2-B 先 PORT#1 ※ハブのポート番号等	ハブ側	元 PORT#1 ※ハブのポート番号等 先 ① FT1 PCI#2-B
監視用 LANケーブル (FT 2用)	FT2側	元 ① FT2 PCI#2-B 先 PORT#2 ※ハブのポート番号等	ハブ側	元 PORT#2 ※ハブのポート番号等 先 ① FT2 PCI#2-B
業務用 LANケーブル (FT 1用)	FT1側	元 ① FT1 LAN#1 先 PORT#3 ※ハブのポート番号等	ハブ側	元 PORT#3 ※ハブのポート番号等 先 ① FT1 LAN#1
業務用 LANケーブル (FT 2用)	FT2側	元 ① FT2 LAN#1 先 PORT#4 ※ハブのポート番号等	ハブ側	元 PORT#4 ※ハブのポート番号等 先 ① FT2 LAN#1
電源ケーブル (FT1用) ※ UPS使用の場合	FT1側	元 ① FT1 先 UPS1#1 ※出力番号等	UPS1側	元 UPS1#1 ※出力番号等 先 ① FT1
電源ケーブル (FT2用) ※ UPS使用の場合	FT2側	元 ① FT2 先 UPS2#1 ※出力番号等	UPS2側	元 UPS2#1 ※出力番号等 先 ① FT2
シリアルポート接続ケーブル (FT1用)	FT1側	元 ① FT1 COM#2 先 UPS1 PORT#1	UPS1側	元 UPS1 PORT#1 先 ① FT1 COM#2
シリアルポート接続ケーブル (FT2用)	FT2側	元 ① FT2 COM#2 先 UPS2 PORT#1	UPS2側	元 UPS2 PORT#1 先 ① FT2 COM#2

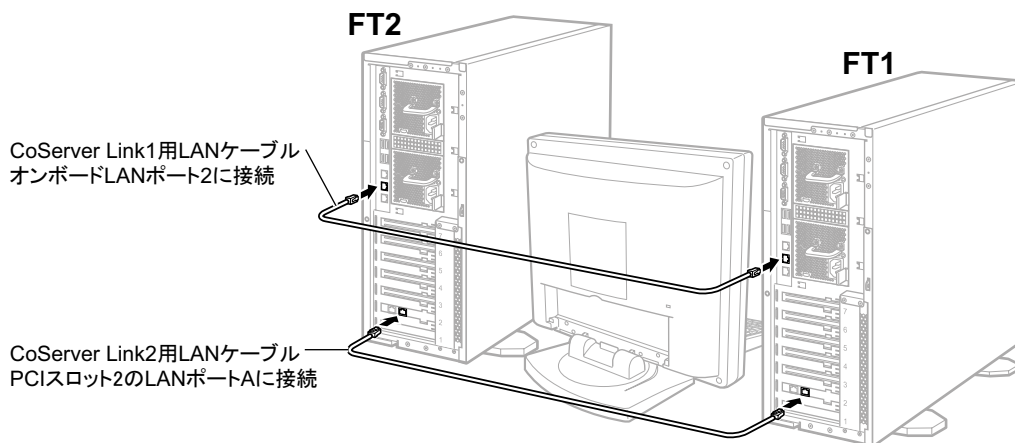
## 5 周辺装置を接続する

サーバ本体に、LANケーブル、キーボードやマウスなどの周辺装置をそれぞれ次の順番で接続します。

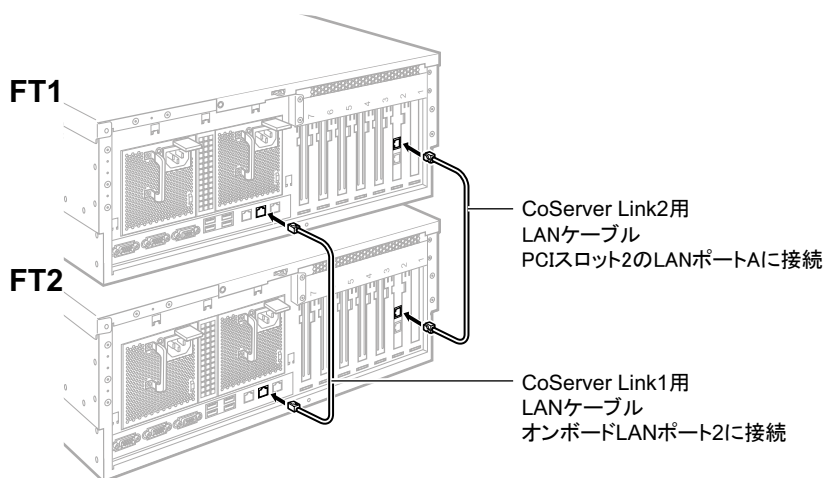
### ■ LAN ケーブルの接続

- ・ 添付の LAN ケーブルをお使いください。
- ・ LAN ケーブルは複雑に交差しないように、FT1、FT2 の同じ位置の差し込み口に接続してください。
- ・ 業務用 LAN、監視用 LAN ケーブルは、まだ接続しないでください。

#### ●タワータイプ



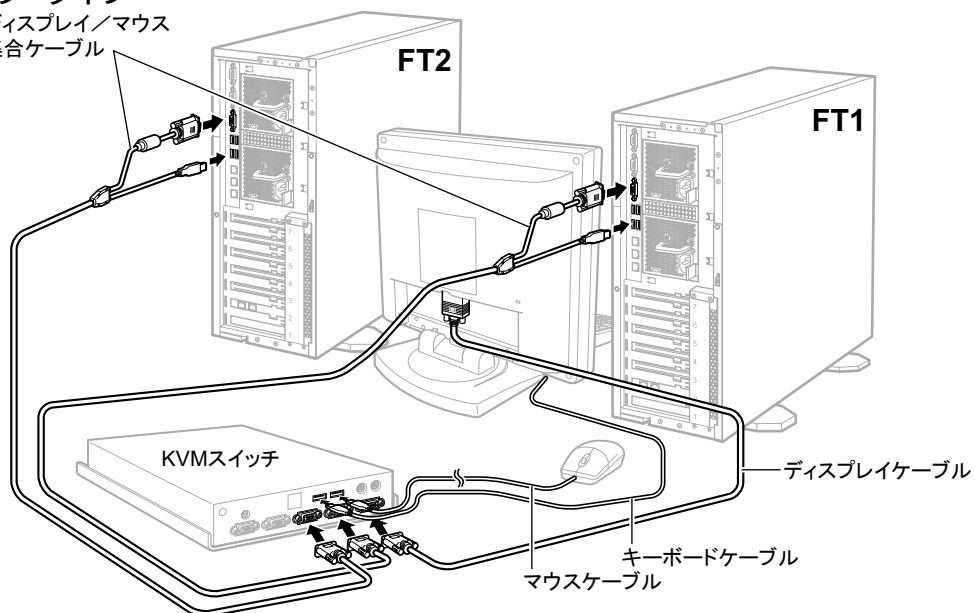
#### ●ラックタイプ



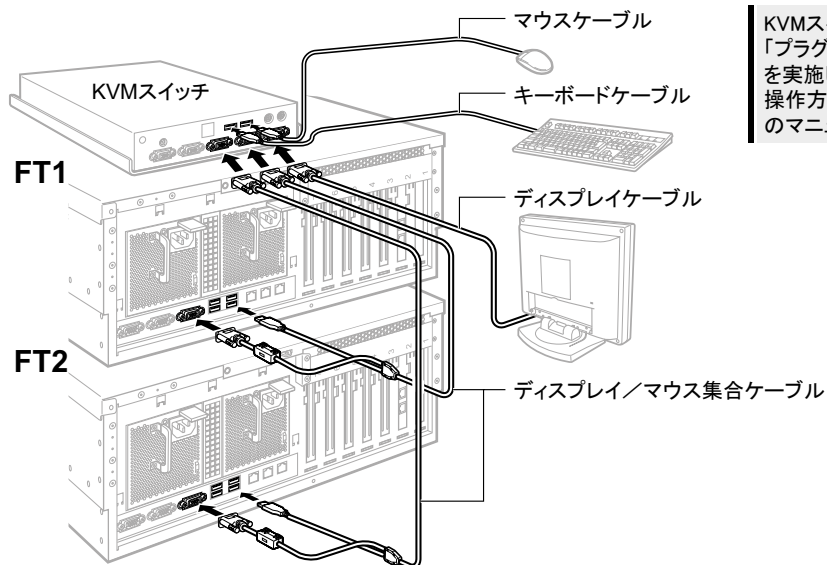
## ■ディスプレイ、キーボード、マウスの接続

### ●タワータイプ

ディスプレイ/マウス  
集合ケーブル



### ●ラックタイプ



KVMスイッチにディスプレイ接続後、  
「プラグアンドプレイデータの取得」  
を実施してください。  
操作方法については、KVMスイッチ  
のマニュアルをご覧ください。



## 電源ケーブルの接続

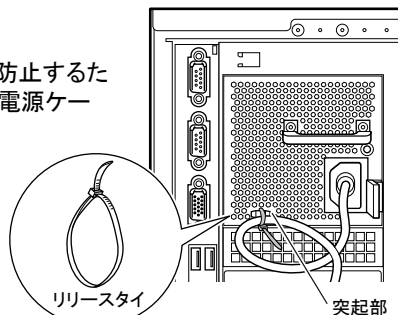
2台のUPSの電源ケーブルを、商用電源に接続します。使用できる商用電源が2系統以上ある場合は、各UPSを別々の商用電源に接続してください。1系統のみの場合は、同一系統に接続してください。

### リリースタイによる電源ケーブルの固定

電源ケーブルをサーバ本体に接続後、電源ケーブルが抜け落ちることを防止するため、右の図のように添付のリリースタイで電源ユニットスロットの突起部と電源ケーブルをコネクタから10cm程度余裕をもたせて固定してください。

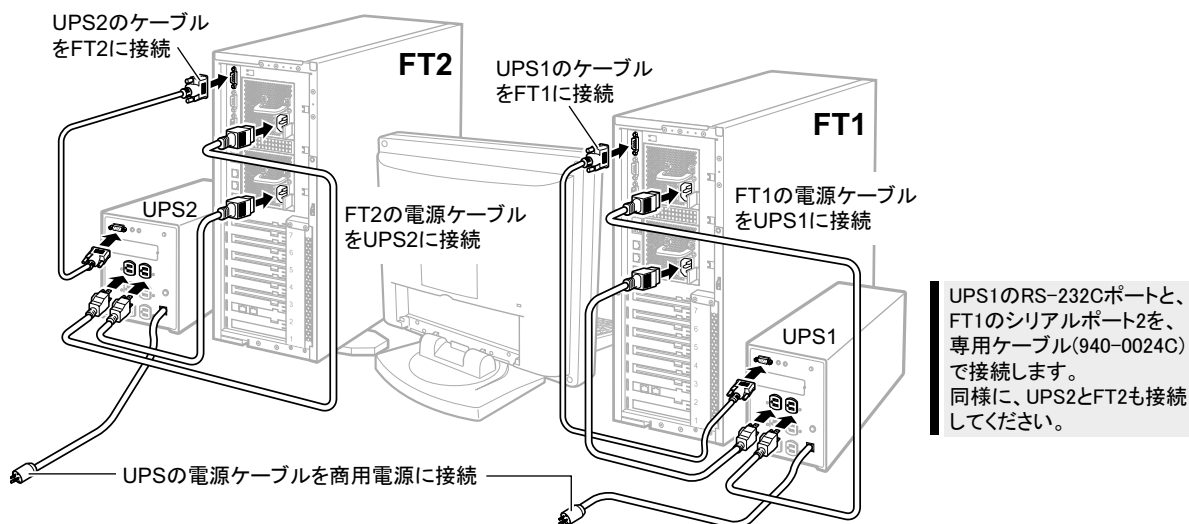
なお、本体の電源ケーブルを抜くときは、必ず本体側の電源コネクタを抜いてください。

FT1、FT2の電源コネクタ(4箇所)を、それぞれリリースタイで固定してください。

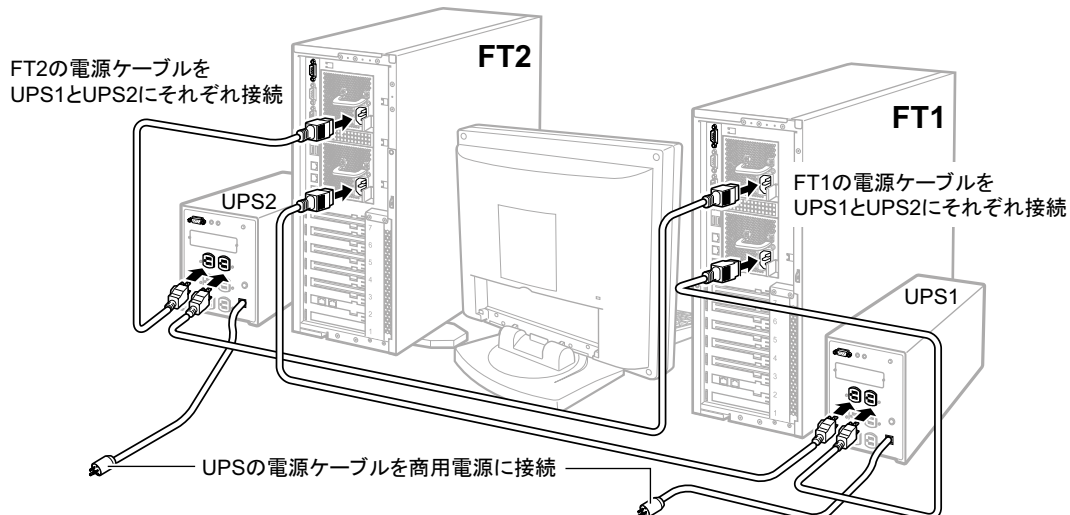


### ●タワータイプ

#### ・UPS (PowerChute Business Edition) を使用する場合



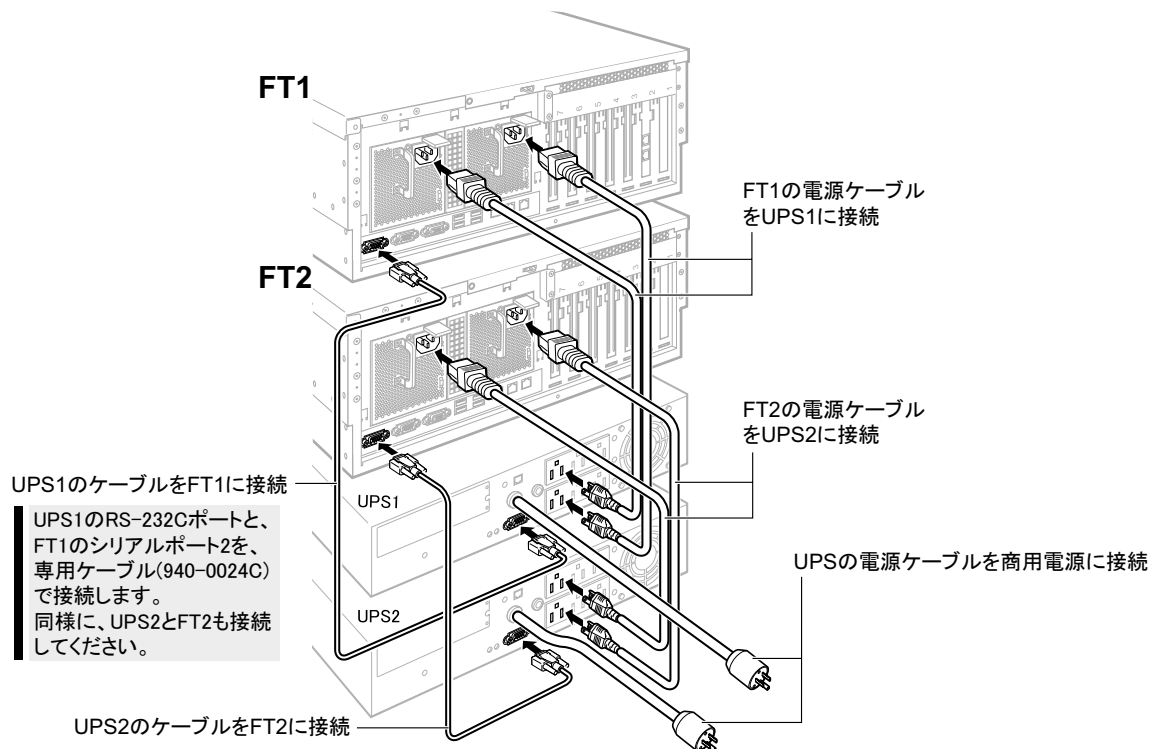
#### ・UPS (PowerChute Network Shutdown) を使用する場合



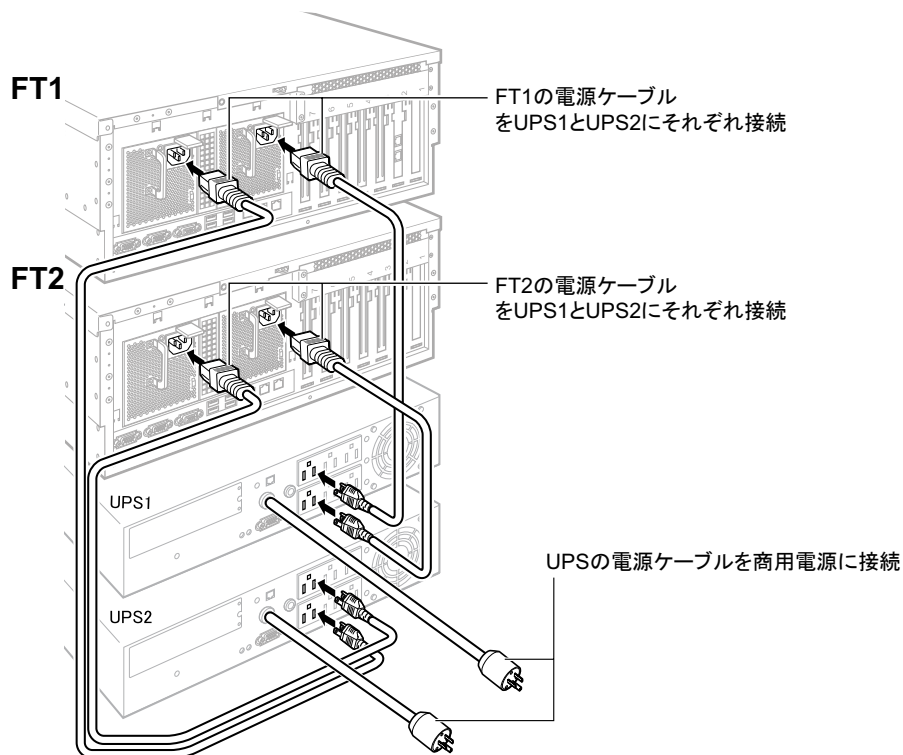


## ●ラックタイプ

- ・UPS (PowerChute Business Edition) を使用する場合



- ・UPS (PowerChute Network Shutdown) を使用する場合



## 6 OS 開封前に必要な情報を決める

OSの開封処理を行う前に、次の情報を決め、各シート内の太枠に記入してください。FTシステムを復旧する際にも必要になりますので、本紙を記入後、大切に保管しておいてください。

- ・ everRun License Number
- ・ オーナー情報
- ・ 利用者情報（ユーザおよびパスワード）
- ・ 片系障害発生時の自動起動設定
- ・ 自動シャットダウン時の待ち合わせ時間（UPS 使用時のみ）
- ・ ネットワーク構成
- ・ everRun ソフトウェアの最新アップデートモジュールの確認
- ・ HDD チェックスケジュールの設定
- ・ バッテリリキャリブレーションスケジュールの設定

### everRun License Number

everRun License Number は、サーバ本体に同梱の『ライセンス番号』に記載されています。  
この番号は CoServer1 と CoServer2 で共通です。

License Number	
----------------	--

everRun License Number を紛失すると、FT システムが復旧できなくなりますので、ご注意ください。

### オーナー情報

項目名	Virtual Server	FT1 (CoServer1)	FT2 (CoServer2)
名前			
組織名			

### 利用者情報

項目名		FT1 (CoServer1)	FT2 (CoServer2)
Virtual Server のシステム管理者	ユーザアカウント	Administrator *5	
	パスワード *1		
CoServer のシステム管理者	ユーザアカウント	Administrator *5	
	パスワード *1、*2		
UPS サービスのシステム管理者 *3	ユーザアカウント		
	パスワード		
PowerChute 用管理ユーザ *4	ユーザアカウント		
	パスワード		

\*1：パスワードは空にせず、必ず設定してください。

\*2：Virtual Server、CoServer1 および CoServer2 で異なるパスワードに設定できますが、各種設定手順が煩雑になることを避けるため、Virtual Server、CoServer1 および CoServer2 で同じパスワードにすることを推奨します。

\*3：UPS サービスのログオン用アカウントです。

\*4：このユーザは PowerChute 上で設定するもので、Windows のユーザアカウントとは関係ありません。

\*5：ビルトインアカウントである「Administrator」の名前を変更する場合は、OS 開封処理がすべて完了した後に行ってください。

## ■ 片系障害発生時の自動起動設定

項目名	FT1 (CoServer1)	FT2 (CoServer2)
片系自動起動設定	有効 / 無効	有効 / 無効
CoServer 組み込み待ち時間 (0 秒～)	秒	秒

- ・ CoServer の組み込み待ち時間は余裕をもって設定してください (600 秒以上推奨)。
- ・ FTシステムは相手の CoServer を認識するまで時間を要します。極端に短い時間を設定した場合、相手の CoServer を認識する前に、CoServer の組み込み待ち時間を超過してしまい、一方の CoServer のみで起動を開始してしまう場合があります (240 秒未満は禁止)。
- ・ CoServer2 の CoServer の組み込み待ち時間は、CoServer1 の設定値より 10 秒以上長くしてください。
- ・ 片系自動起動設定は、CoServer1、CoServer2 それぞれで設定を行います。
- ・ 片系自動起動設定を「有効」にする場合、特別な理由がない限りは FT1、FT2 の両方を「有効」に設定してください。
- ・ CoServer の組み込み待ち時間を 256 秒以上に設定する場合は、『ユーザーズガイド』の「2.7.1 FT システム起動、停止時の留意事項」－「■ CoServer 組み込み待ち時間を変更する方法」をご覧になり設定してください。
- ・ FT2 による片系起動が実行された場合は、『ユーザーズガイド』の「8.2.6 ハードウェア保守後に必要な作業」－「● システム起動時に、FT2 による片系自動起動または強制的に片系起動を実行した場合の対処」の作業が必要になります。

## ■ 自動シャットダウン時の待ち合わせ時間

この設定は UPS を使用する場合に必要です。

### ● PowerChute Business Edition を使用する場合

各設定値については、『ユーザーズガイド』の「3.5 PowerChute Business Edition の設定「UPS の管理」」をご覧ください。( ) 内の数字は設定例です。

項目名	実際の設定項目	設定時間
停電発生から Virtual Server のシャットダウン処理開始までの待ち時間	デバイスプロパティの「電源障害」→「電源障害時のシャットダウン開始 :」→「UPS のバッテリー状態が次の時間経過後 :」	分 (1 分)
Virtual Server のシャットダウン処理開始から CoServer のシャットダウン開始までの待ち時間 (コマンドファイル実行所要時間)	デバイスプロパティの「シャットダウンシーケンス」→「次へ」→「OS」を選択→「待機時間」	分 (3 分)
CoServer シャットダウン開始から、UPS の電力切断までの待ち時間 (OS のシャットダウンに必要な時間)	デバイスプロパティの「シャットダウンシーケンス」→「次へ」→「OS」を選択→「期間」	分 (1 分 30 秒)
合計		分 秒 (5 分 30 秒)

### ● PowerChute Network Shutdown を使用する場合

各設定値については、『ユーザーズガイド』の「3.6 PowerChute Network Shutdown の設定「UPS の管理」」をご覧ください。( ) 内の数字は設定例です。

項目名	実際の設定項目	設定時間
停電発生から Virtual Server のシャットダウン処理開始までの待ち時間	「Configuration Events」→「Configure Shutdown」→「Shutdown the system only when the event lasts this long (seconds):」	分 (1 分)
CoServer シャットダウン開始から、UPS の電力切断までの待ち時間 (OS のシャットダウンに必要な時間)	「Configuration」→「Shutdown Parameters」→「Shutdown Delay」	分 (5 分)
合計		分 (6 分)

## ■ ネットワーク構成

コンピュータ名は半角英数字で設定します（全角文字は使用できません）。

CoServer Link1、CoServer Link2、仮想 LAN1、仮想 LAN2 は、内部ネットワーク用の設定です。通常は変更する必要はありません。ただし、外部ネットワークとの競合がある場合は、『ユーザーズガイド』の「3.2 ネットワーク機能について」をご覧ください。設定してください。（ ）内はデフォルト値です。

項目名	Virtual Server	
	IP アドレス	サブネットマスク
コンピュータ名（デフォルトコンピュータ名）	(VS)	
ローカルエリア接続（業務用 LAN）	. . .	. . .
ローカルエリア接続 2（業務用 LAN）増設時のみ	. . .	. . .
ローカルエリア接続 3（業務用 LAN）増設時のみ	. . .	. . .
ローカルエリア接続 4（業務用 LAN）増設時のみ	. . .	. . .
Virtual Network1（仮想 LAN1）	(192 . 168 . 181 . 81)	(255 . 255 . 255 . 252)
Virtual Network2（仮想 LAN2）	(192 . 168 . 181 . 85)	(255 . 255 . 255 . 252)

項目名	CoServer1（FT1）		CoServer2（FT2）	
	IP アドレス	サブネットマスク	IP アドレス	サブネットマスク
コンピュータ名（デフォルトコンピュータ名）	(CoServer1)		(CoServer2)	
コンピュータ名				
CoServer Management（監視用 LAN）	. . .	. . .	. . .	. . .
CoServer Link1	(192 . 168 . 181 . 89)	(255 . 255 . 255 . 252)	(192 . 168 . 181 . 90)	(255 . 255 . 255 . 252)
CoServer Link2	(192 . 168 . 181 . 93)	(255 . 255 . 255 . 252)	(192 . 168 . 181 . 94)	(255 . 255 . 255 . 252)
Virtual Network（仮想 LAN）	(192 . 168 . 181 . 82)	(255 . 255 . 255 . 252)	(192 . 168 . 181 . 86)	(255 . 255 . 255 . 252)

項目名	UPS1		UPS2	
	IP アドレス	サブネットマスク	IP アドレス	サブネットマスク
ネットワークマネジメントカード (UPS に搭載されている場合)	. . .	. . .	. . .	. . .

- ・ 設定の際、CoServer 上に業務用 LAN のアダプタが表示されますが、Virtual Server が使用するため予約されています。CoServer 上のこれらのアダプタにインターネットプロトコル (TCP/IP) をバインドしたり、IP アドレス、サブネットマスクを設定しないでください。業務用 LAN の IP アドレス、サブネットマスクは Virtual Server 上で設定してください。
- ・ コンピュータ名は半角 14 文字以内で指定してください。全角文字は使用しないでください。

## ■ everRun ソフトウェアの最新アップデートモジュールの確認

PRIMERGY FT モデルの everRun ソフトウェアの最新アップデートモジュールを、次の WEB サイトでご提供しています。最新アップデートモジュールの有無を確認し、WEB サイトで提供されている場合は、ダウンロードして適用をお願いします。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/>

項目名	ご購入時のバージョン	最新のアップデートモジュール
everRun ソフトウェアの Service Pack のバージョン	everRun ソフトウェア V7.1 Service Pack2	
everRun ソフトウェアの緊急修正のバージョン	—	

- ・ everRun ソフトウェアの Service Pack / 緊急修正に関する情報は、『ユーザーズガイド』の「3.1.1 システムを最新にする」をご覧ください。
- ・ everRun ソフトウェアのアップデート CD-ROM が製品に添付されている場合は、WEB 上で公開されているアップデートモジュールと比較し、最新バージョンのモジュールを適用してください。

## ■ HDD チェックスケジューラの設定

HDD チェックスケジューラは、ハードディスクの媒体不良を検出・修復するプログラムです。整合性確保を定期的に行うことで、普段の運用ではアクセスされない領域を含むすべてのロジカルドライブ領域に対して媒体チェックを行います。詳しくは、『ユーザーズガイド』の「3.1.11 HDD チェックスケジューラの設定」をご覧ください。

項目名	ご購入時の設定値	変更後の設定値
CoServer1	隔週 土曜日 20:00	
CoServer2	隔週 土曜日 20:00	

- ・HDD チェックは 1 ～ 2 週 に 1 回以上の定期実行を推奨しています。
- ・HDD チェック中は、ロジカルドライブに対する I/O 性能が低下します。なるべく業務への影響が小さい時間帯に実行されるように開始時刻を設定してください。
- ・ご購入時は、CoServer1 と CoServer2 が一週間ごとと交互に HDD チェックが実行されるように設定されています。
- ・CoServer1 と CoServer2 で同時に HDD チェックを実行した場合、I/O 性能が最大約 50% 程度低下する場合があります。CoServer1 と CoServer2 で別々の時間帯に HDD チェックを実行した場合、I/O 性能が最大約 30% 程度低下する場合があります。CoServer1 と CoServer2 で別々の時間帯に HDD チェックスケジューラを実行することを推奨します。
- ・スケジュールの変更方法については、製品に添付の「アレイコントローラドキュメント & ツール CD」に格納されている、『MegaRAID SAS ユーザーズガイド』の「4.3.2 HDD チェック開始時間の変更方法」をご覧ください。
- ・Virtual Server では、HDD チェックスケジューラは動作しません。
- ・CoServer の「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「タスク」に登録されている、HDD チェックスケジューラ用のタスク「HDD Check」を有効にするには、管理者権限のユーザおよびパスワードの設定が必要です。
- ・ご購入時の状態から、HDD チェックスケジューラをアップデートすると、新しいタスクが追加で登録されることがあります。その場合は、既存のタスク（HDD Check）、または新しいタスクのどちらかを削除してください。

## ■ バッテリリキャリブレーションスケジューラの設定

PRIMERGY FT モデルに搭載されているアレイコントローラカードのバッテリーバックアップユニットは、バッテリー容量を管理する機能をもっています。長期間の運用を続けると、バッテリーバックアップユニットが管理するバッテリー容量に誤差が生じてくるため、定期的なバッテリーのリキャリブレーションが必要です。詳しくは、『ユーザーズガイド』の「3.1.12 バッテリリキャリブレーションスケジューラの設定」をご覧ください。

項目名	ご購入時の設定値	変更後の設定値
CoServer1	毎月 第 1 日曜日 12:00	
CoServer2		

- ・バッテリーリキャリブレーションは 1 ～ 2 ヶ月に 1 回程度の定期実行を推奨しております。
- ・リキャリブレーションは連続通電状態で 12 時間必要となります。
- ・リキャリブレーション中は、ライトバックに設定されているロジカルドライブが、安全のためライトスルー動作となりますので、なるべく業務への影響が小さい時間帯に実行されるように開始日時を設定してください。
- ・スケジュールの変更方法については、製品に添付の「アレイコントローラドキュメント & ツール CD」に格納されている、『MegaRAID SAS ユーザーズガイド』の「4.4.2 バッテリリキャリブレーション開始日時の変更方法」をご覧ください。
- ・Virtual Server では、バッテリーリキャリブレーションスケジューラは動作しません。
- ・CoServer1 と CoServer2 の設定値は、必ず同一にしてください。
- ・CoServer の「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「タスク」に登録されている、バッテリーリキャリブレーションスケジューラ用のタスク「BBU Check」を有効にするには、管理者権限のユーザおよびパスワードの設定が必要です。
- ・ご購入時の状態から、バッテリーリキャリブレーションスケジューラをアップデートすると、新しいタスクが追加で登録されることがあります。その場合は、既存のタスク（BBU Check）、または新しいタスクのどちらかを削除してください。

## 7 電源を入れて、各 OS を開封する

CoServer1、CoServer2、Virtual Serverを開封する手順について説明します。Virtual Serverを開封するには、CoServer1と CoServer2の両方が開封されている必要があります。  
次の順番で開封を行ってください。

- (1) FT1 の電源を入れ、CoServer1 を開封します。このとき、FT2 の電源はまだ入れないでください。
- (2) FT2 の電源を入れ、CoServer2 を開封します。開封手順は CoServer1 と同様です。
- (3) CoServer1 と CoServer2 にログオンし、Virtual Server を開封します。

- ・ CoServer1 と CoServer2 を同時に開封することはできません。FT1 の電源を入れた後、CoServer1 の開封が終了するまで、FT2 の電源は入れないでください。
- ・ すべての操作は、管理者権限でログオンする必要があります。
- ・ 内蔵ハードディスクを増設した場合は、各 OS の開封前に、バックアップ DVD を使用してリカバリ操作を行ってください。



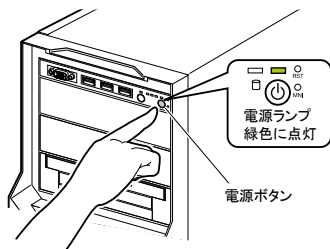
ユーザーズガイド ▶▶「第 7 章 運用と保守 7.4 ご購入時の状態にする（リカバリ）」

### ■ CoServer1 を開封する

- 1 業務用 LAN と監視用 LAN が、サーバ本体に接続されていないことを確認し、周辺装置の電源を入れます。

UPS を接続している場合は、UPS が正常に電力を供給しているか確認してください。

- 2 FT1 本体前面の電源ボタンを押します。



電源が入ると、サーバ本体の装置をチェックする「POST（Power On Self Test：パワーオンセルフテスト）」を行います。POSTの結果、異常があれば、エラーメッセージが表示されます。

POST 終了後、自動的に開封処理が始まります。

- 3 開封時に、次の項目を入力します。

各項目の設定値を十分確認し、「次へ」をクリックしてください。

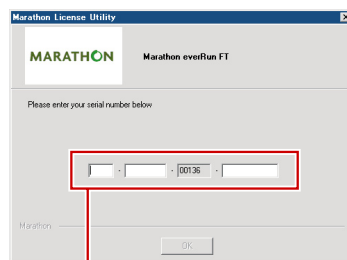
- ・ ソフトウェアの個人用設定（名前・組織名）
- ・ コンピュータ名（半角英数字のみを使用）
- ・ Administrator のパスワード

- ・ CoServer1 と CoServer2 で同一のパスワードに設定すると、デバイスの追加／削除、CoServer Backup ツールの使用が簡単になります。
- ・ パスワードは必ず設定してください。FT システム内部の通信に問題が発生します。
- ・ 「戻る」で戻れない場合があります。設定項目を十分確認してから「次へ」をクリックしてください。

セットアップ終了後、サーバが再起動し、Windows OS が起動します。

- 4 CoServer1 に管理者権限でログオンします。

ログオン後、ネットワークの設定処理が自動実行され、その後、次の画面が表示されます。everRun License Number を入力し、「OK」をクリックします。



everRun License Numberを入力

- ・ everRun License Number は、必ずご購入の装置に添付の番号を使用してください。他の PRIMERGY FT モデルの番号を使用した場合は、正常に動作しない場合があります。
- ・ 環境により、NumLock ロック状態になる場合があります。その場合は、NumLock キーを押してロック状態を解除してから、everRun License Number を入力してください。
- ・ everRun License Number は必ず入力してください。入力せずにサーバ本体の再起動を行った場合は、システムが正常にセットアップされません。
- ・ コマンドプロンプト画面が起動しますが、コマンドプロンプト画面を閉じずに、everRun License Number を入力後、そのまま再起動を行ってください。
- ・ 誤った everRun License Number を入力し OS を開封してしまった場合、『ユーザーズガイド』の「7.4 ご購入時の状態にする（リカバリ）」を実施し、OS 開封処理を最初からやり直してください。

再起動を促すメッセージが表示されます。

- 5 「はい」をクリックします。

CoServer が再起動します。



- 6 POST 画面（または「PRIMERGY」のロゴ画面）が表示されたら、すぐにサーバ本体前面の電源ボタンを押して、電源を切ります。

## ■ CoServer2 を開封する

CoServer2の開封手順は、CoServer1と同様です。前項「■ CoServer1を開封する」をご覧ください、開封処理を行ってください（FT1→FT2、CoServer1→CoServer2にそれぞれ置き換えてお読みください）。

## ■ Virtual Server を開封する

- 1 FT1、FT2 の電源を入れます。  
POST 終了後、OS の選択画面が表示されます。

オペレーティング システムの選択

Online Marathon CoServer  
Offline Marathon CoServer

上矢印キーと下矢印キーを使って項目を選択し、Enterキーを押してください。

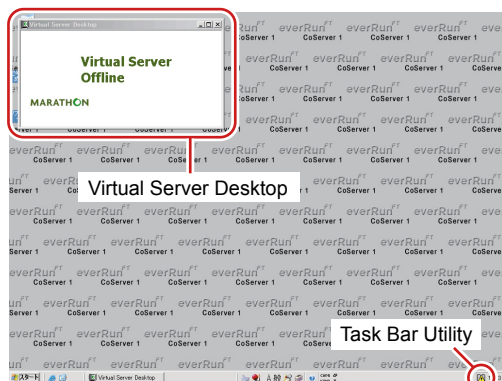
Windowsの問題解決と拡張起動オプションについては、F8キーを押してください。

- 2 「Online Marathon CoServer」が選択されていることを確認し、【Enter】キーを押します。

ログオン画面が表示されます。

上記操作を行わなかった場合は、一定時間（既定値は30秒）後に「Online Marathon CoServer」として起動します。そのまま次の操作に移って問題ありません。

- 3 FT1 で、管理者権限のパスワードを入力して CoServer1 にログオンします。  
次の画面が表示されます。



次のスタートアッププログラムが起動しない場合は、各プログラムを次の操作により手動で起動してください。

- Virtual Server Desktop  
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Marathon」→「Virtual Server Desktop」
- Task Bar Utility  
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Marathon」→「Task Bar Utility」

- 4 CoServer1 で、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Marathon」→「Management Tasks」→「Virtual Server」→「Start」の順にクリックします。

Windows Server 2003 セットアップウィザードの開始画面が表示されます。

Virtual Server Desktop の画面には、しばらくの間何も表示されませんが、エラーではありません。そのままお待ちください。

- 5 「次へ」をクリックします。

セットアップが開始されます。セットアップ中に次の項目を入力します。それ以外の項目は任意で入力してください。各項目の設定値は十分確認したうえで「次へ」をクリックしてください。

- ・ライセンス契約の同意
- ・ソフトウェアの個人用設定（名前・組織名）
- ・コンピュータ名（半角英数字のみを使用）
- ・Administrator のパスワード

セットアップが完了すると、Virtual Server が再起動し、ログオン画面が表示されます。

- 6 Virtual Server にログオンします。

ログオン後、Windows セキュリティ更新プログラムの適用処理が自動的に実行され、「セットアップ後のセキュリティ更新」画面が表示されます。

- 7 「完了」をクリックします。

完了を確認するメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

Windows セキュリティ更新プログラムの適用は、開封処理がすべて完了した後に行ってください。

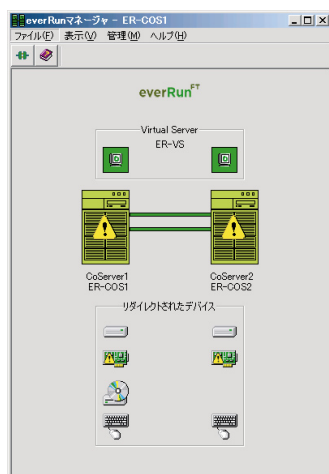
- 8 Virtual Server で、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」を選択します。

- 9 Virtual Server にログオンします。



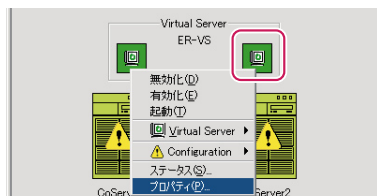
## 10 everRun マネージャを起動します。

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Marathon」→「everRun Manager」の順にクリックして、everRun マネージャを起動します。



業務用 LAN ケーブルが HUB などと接続されてない状態では、上図のようにエラー表示になりますが、異常ではありません。このまま作業を続けてください。

## 11 Virtual Server アイコンを右クリックし、「プロパティ」を選択します。



「コンポーネントプロパティ」画面が表示されます。

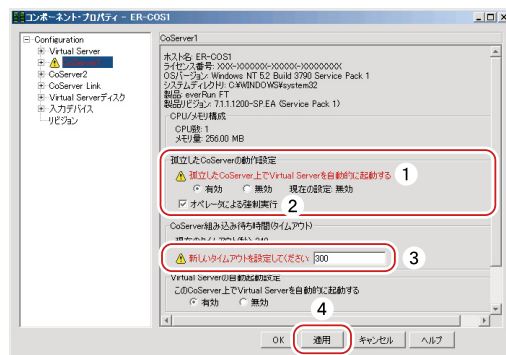
## 12 左側のツリーから「Virtual Server」を選択し、「自動起動設定」の「有効」をチェックして、「適用」をクリックします。



赤字の警告メッセージがプロパティ画面上に表示されますが、プロパティ値を変更したことを示しており、動作上問題ありません。

「■ 片系障害発生時の自動起動設定」で「有効」設定を選択した場合は、手順 13、14 を行って自動起動設定を行います。「無効」設定を選択した場合は、手順 15 に進んでください。

## 13 左側のツリーから「CoServer1」を選択し、孤立した CoServer の動作設定を行います。



1. 「孤立した CoServer 上で Virtual Server を自動的に起動する」を「有効」に設定します。
2. 「オペレータによる強制実行」にチェックを付けます。
3. CoServer 組み込み待ち時間（タイムアウト）の「新しいタイムアウトを設定してください」に、「■ 片系障害発生時の自動起動設定」で設定した「CoServer 組み込み待ち時間」の秒数を入力します。
4. 「適用」をクリックします。

## 14 左側のツリーから CoServer2 をクリックし、同様に孤立した CoServer の動作設定を行います。

## 15 「OK」をクリックして「コンポーネント・プロパティ」画面を閉じ、everRun マネージャを終了します。

## 16 次のアダプタに IP アドレスを設定します。

あらかじめ DHCP で IP アドレスを自動取得する設定になっていますので、そのまま良い場合は、この手順は必要ありません。

- CoServer1 の「CoServer Management」
- CoServer2 の「CoServer Management」
- Virtual Server の「ローカルエリア接続」

CoServer1 および CoServer2 の「Redirected0」は、Virtual Server が使用するため予約されています。これらのアダプタにインターネットプロトコル (TCP/IP) をバインドしないでください。業務用 LAN の IP アドレス、サブネットマスクは Virtual Server 上で設定してください。

## 17 『ユーザーズガイド』の次をご覧になり、CoServer のネットワークアダプタの設定変更を行ってください。

「3.2.4 その他ネットワークの留意事項」- 「■ ネットワークアダプタのアクセス順序の設定」

## 18 OS 開封前にオプション装置を追加した場合は、『ユーザーズガイド』の次をご覧になり、増設後の操作を行ってください。

- LAN カードを追加した場合  
「5.5 LAN カード取り付け後の操作」
- 5 インチ内蔵バックアップ装置を追加した場合  
「5.8.5 内蔵バックアップ装置取り付け後の操作」
- 外付けバックアップ装置を追加した場合  
「5.9 外付けバックアップ装置の接続」

## 8 電源を切る

Virtual Server画面で、シャットダウンします。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Marathon」→「Management Tasks」→「Configuration」→「Shutdown」の順にクリックします。

シャットダウンの確認メッセージが表示されます。

- 2 「OK」をクリックします。

Virtual Server → CoServer1 → CoServer2 の順にシャットダウンし、自動的に電源が切れます。



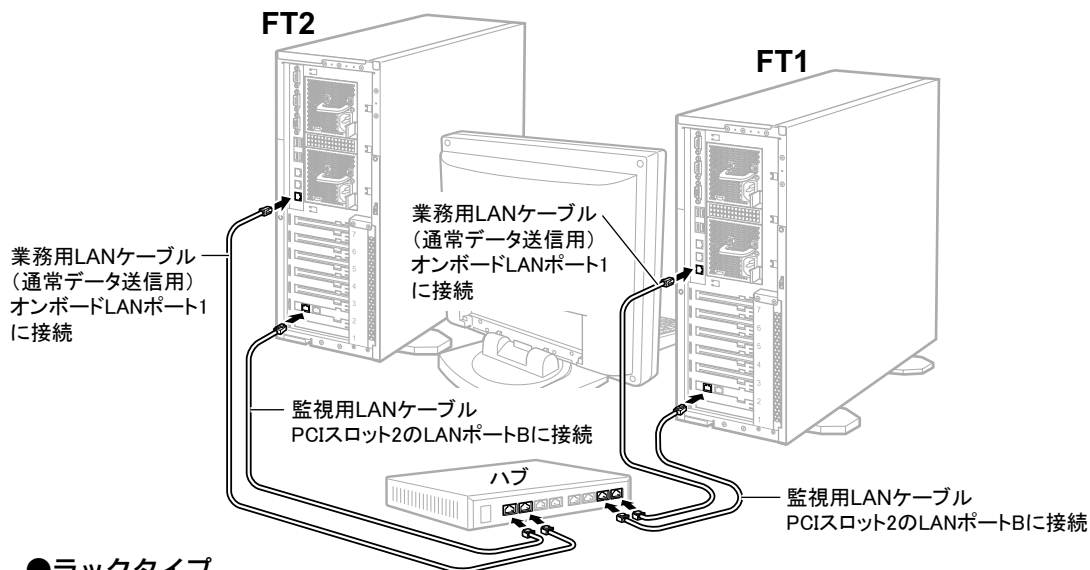
電源を切った後、再び電源を入れるときは、10 秒以上待ってから電源ボタンを押してください。電源を切った後すぐに電源を入れると、サーバ本体の誤動作、および故障の原因になります。

## 9 残りの LAN ケーブルを接続する

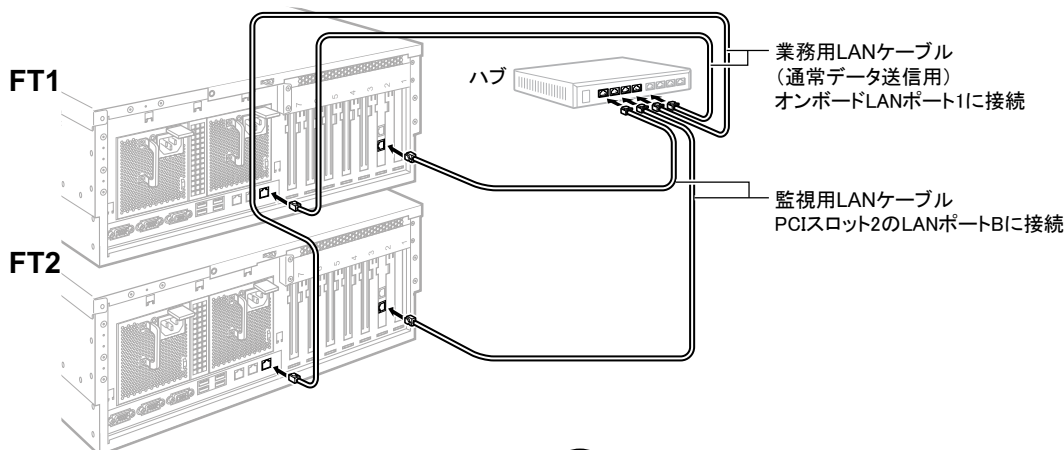
サーバの電源切断後、残りの LAN ケーブルを接続してください。

- ・ FT システムでは、業務用（通常データ送信用）、CoServer Link、監視用のすべての LAN を使用して制御を行っていますので、監視用 LAN ケーブルも忘れずにハブなどに接続してください。
- ・ UPS にネットワークマネジメントカードが搭載されている場合は、ネットワークマネジメントカードにも LAN ケーブルを接続してください。

### ●タワータイプ



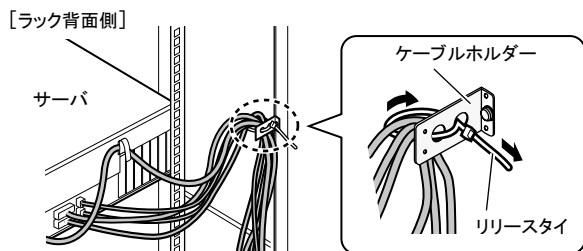
### ●ラックタイプ



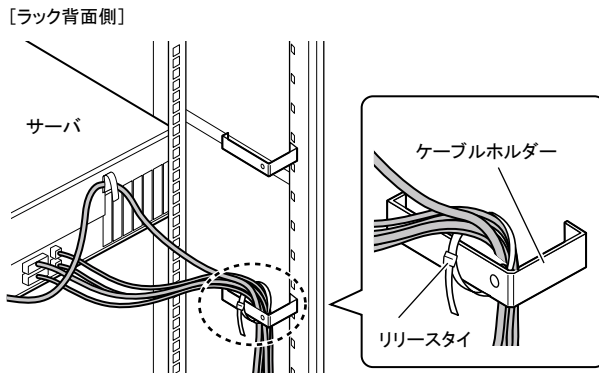
## ■ ケーブルのフォーミング（ラックタイプのみ）

ラックに搭載した場合は、すべてのケーブルを接続後、リリースタイを使用して、各種ケーブルをまとめてラック背面側のケーブルホルダーに固定します。

### ・スタンダードラック／16U ラック ／低騒音型ラックの場合



### ・19 インチラックの場合



## 10 運用を開始する前に

OSの開封後、運用を開始する前に、次の操作を行ってください。

### ● everRun ソフトウェアアップデート CD-ROM の適用

everRun ソフトウェアのアップデート CD-ROM が製品に添付されている場合、OS の開封後に適用します。適用することにより、システムに潜在する問題を未然に防ぐことができます。適用手順は、CD-ROM に添付の取扱説明書をお読みください。

### ● everRun ソフトウェアの最新アップデートモジュールの適用

everRun ソフトウェアの最新アップデートモジュールは、次の WEB サイトで提供しています。最新のアップデートモジュールが WEB サイトで提供されている場合、ダウンロードして適用してください。適用手順は、ダウンロードしたモジュールのインストール手順書をご覧ください。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/>

- ・ 緊急性が特に高いアップデートモジュールは、「everRun ソフトウェアアップデート CD-ROM」として製品に添付されている場合があります。
- ・ WEB サイトで公開しているアップデートモジュールと、「everRun ソフトウェアアップデート CD-ROM」で提供しているモジュールのバージョンが異なる場合は、バージョンが新しい方を適用してください。

### ● 各種ソフトウェアの設定

『ユーザーズガイド』の次をご覧ください、FT システムを運用するための設定を行ってください。

- ・ 「3.1.11 HDD チェックスケジューラの設定」
- ・ 「3.1.12 バッテリリキャリブレーションスケジューラの設定」
- ・ 「4.3.4 運用前のサーバ監視ソフトウェアの設定について」

運用を開始する前に、『ユーザーズガイド』の「第 3 章 運用前の設定」をご覧ください、必要な設定を行ってください。

### ● UPS の設定

UPS をお使いになる場合は、『ユーザーズガイド』の次をご覧ください、UPS の設定を行ってください。

- ・ 「3.5 PowerChute Business Edition の設定「UPS の管理」」
- ・ 「3.6 PowerChute Network Shutdown の設定「UPS の管理」」

### ● CoServer のバックアップ

片方のサーバ復旧に備えて、『ユーザーズガイド』の「7.3 バックアップ」をご覧ください、システムの運用を開始する前に CoServer のバックアップを行ってください。

運用開始後の保守については、『ユーザーズガイド』の「第 7 章 運用と保守」をご覧ください。

# 使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本サーバにインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。

なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものいたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

## ソフトウェアの使用条件

### 1. 本ソフトウェアの使用および著作権

お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本サーバでのみ使用できます。なお、お客様は本サーバのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。

### 2. バックアップ

お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。

### 3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み

本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。

### 4. 複製

(1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。

本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。

ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。

(2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。

### 5. 第三者への譲渡

お客様が本ソフトウェア（本サーバに添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたサーバとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本サーバに添付されている媒体を本サーバとは別に第三者へ譲渡することはできません。

### 6. 改造等

お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。

### 7. 保証の範囲

(1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本サーバをご購入いただいた日から90日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。

また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本サーバをご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。

(2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。

(3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記（1）の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。

### 8. ハイセイフティ

本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的な用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

記

原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

Microsoft、Windows、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2009

FUJITSU